

1. 科目名 (単位数)	音楽Ⅲ (2 単位)	3. 科目番号	SJMP3140								
2. 授業担当教員	杉原 由利子										
4. 授業形態	演習、講義、実技	5. 開講学期	春期								
6. 履修条件・他科目との関係	「音楽」「音楽Ⅱ」を履修済であること										
7. 講義概要	「音楽Ⅲ」では「音楽」「音楽Ⅱ」で習得した技術の上に乗って、実習や就職後の実践力の育成を視野に、保育現場の長期、短期の指導計画に音楽的活動を適切に盛り込むことができるようになるため、あらためて保育における音楽活動に関わる知識と技術を磨く。子どもが歌うとはどういうことか理解し、適切に教材を選ぶため、子どもの歌の特徴を理解し、正しく歌い、演奏し、楽器で遊び、身体で表現する。ピアノの弾き歌いおよび楽器の演奏と合奏の技術をさらに高め、表現の指導法についても深めていく。それらの学習を通して、個人の素養と、より高い保育・教育実践に必要な知識や技能を習得する。										
8. 学習目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 子どもの歌、子どもの発声についての理解を深め、自ら正しく演奏できる。</li> <li>2. 子どもの発達、興味関心、季節等に応じた教材選択ができる。</li> <li>3. 歌、楽器、身体表現、言葉などを含む総合的な活動を企画、実践できる。</li> <li>4. 弾き歌いなど保育者としての音楽能力を高める。</li> </ol>										
9. アサシメント (宿題) 及びレポート課題	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 毎回個人の進度に応じたピアノ演奏課題を提示します。 特に、保育者を志望する学生の皆様に対しては、それらの資格に必要なレベルの課題を提示します。</li> <li>2. 第6回の授業で、無伴奏歌唱(リズム、ハンドサインなどを伴う場合あり)第10回に弾き歌いの発表を実施します。第14回及び15回には第3回目の小テストとして模擬保育を実施します(クラスを前半と後半に分けて行います 就職後、各現場において子どもたちの前で演奏することに慣れるため、また課題を着実にこなすという目的のために実施します。</li> <li>3. 簡易楽器の製作などを通し、現場での実践に即した、考える授業づくりのための演習と致します。</li> <li>4. 各授業終了後に配布された振り返りシートに記入し、提出してください。 ※なお、完全な対面授業実施不可能な状況が継続する場合、一部のシラバスを改定する場合があります(その場合は予め周知いたします)</li> </ol>										
10. 教科書・参考書・教材	杉原由利子・赤塚太郎『新しい音楽のおさらい』共同音楽出版社 『新刊これだけは歌って弾こう子どもの歌70』共同音楽出版社 加えて1年から3年まで使用してきた教科書、配布楽譜など適宜調整 他にその授業ごとに必要な資料を配布します。										
11. 成績評価の規準と評定の方法	<p>○成績評価の規準</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 子どもの発声指導に関する知識を身につけ、自らも正しく演奏できるか。</li> <li>2. 子どもの発達、興味関心、季節等に応じた教材選択ができるか。</li> <li>3. 歌、楽器、身体表現、言葉などを含む総合的な活動を企画、実践できるか。</li> <li>4. 弾き歌いなど保育者としての音楽能力を高められたか。</li> </ol> <p>○評定の方法</p> <p>以下の点を総合して評価する。</p> <table border="0"> <tr> <td>1 子どもの発達、興味関心、季節等に応じた教材選択とその演奏発表</td> <td>総合点の30%</td> </tr> <tr> <td>2 歌、楽器、身体表現、言葉などを含む総合的な活動の企画と実践発表</td> <td>総合点の30%</td> </tr> <tr> <td>3 弾き歌いの発表</td> <td>総合点の20%</td> </tr> <tr> <td>4 授業への取り組み(学習意欲・学習態度など)</td> <td>総合点の20%</td> </tr> </table> <p>上記のほか、本学規定に定められている3/4以上の出席を単位認定の条件としている。</p>			1 子どもの発達、興味関心、季節等に応じた教材選択とその演奏発表	総合点の30%	2 歌、楽器、身体表現、言葉などを含む総合的な活動の企画と実践発表	総合点の30%	3 弾き歌いの発表	総合点の20%	4 授業への取り組み(学習意欲・学習態度など)	総合点の20%
1 子どもの発達、興味関心、季節等に応じた教材選択とその演奏発表	総合点の30%										
2 歌、楽器、身体表現、言葉などを含む総合的な活動の企画と実践発表	総合点の30%										
3 弾き歌いの発表	総合点の20%										
4 授業への取り組み(学習意欲・学習態度など)	総合点の20%										
12. 受講生へのメッセージ	この授業では、特に『音楽』『音楽Ⅱ』を履修した皆様が、実習中や就労後の保育における音楽的指導を行う場面を想定し、実践的な能力を身に付けていくために、器楽の演奏技術の向上を目指します。更に応用力を鍛えることにより、子どもを指導する技術を習得することが大きな目的です。常に自発的、積極的に授業へ参加をして下さい！また、音楽Ⅱまでにおいて、音楽的技術の習得に不足感を得ている皆様は、この授業で、ピアノの演奏は勿論、代表的な子どもの歌の弾き歌い(両手で完全に)や、歌唱指導法の技術をしっかりと身に着けましょう。特に伴奏を伴わない歌唱に自信を持って臨めるように準備しましょう。座学に関しては資料配布と概要の解説に留め、実践的な内容の割合を多くとりまします。わらべうたやアクティビティは、必ず授業以外の場で追試を行ってください。事前学習を必ず行ってから授業に臨んでください。一緒に頑張りましょう！										
13. オフィスアワー	最初の授業時間の時に通知いたします										
14. 授業展開及び授業内容											
講義日程	授業内容	学習課題									
第1回	オリエンテーション：本科目の概要と学習目標 音楽理論復習を兼ねるアンケート調査と回答合わせ 新しい音楽のおさらいの中の関連の内容紹介	事前学習	一年次から使用している、子どもの歌曲集の中から、自分が弾ける程度の曲で、まだ練習したことのない曲を選び、練習しておく。								
		事後学習	第1回目に提示されたピアノ、弾き歌い各々の課題曲の練習を行う。譜読みを確実なものにして次回の授業に臨むこと。								
第2回	・ピアノレッスン/弾き歌いのレッスン ・リズムエクササイズ	事前学習	第1回目に練習した曲、またはそれが終わった学生は新しい曲を練習しておく。								

	<ul style="list-style-type: none"> <li>コードチャートエクササイズ</li> <li>わらべうたの書き取りと遊び—1回目</li> <li>楽典の復習①音階と調性</li> <li>ピアノ小曲の譜読みと学習</li> </ul>	事後学習	課題曲のピアノの練習を行う。音楽理論の学習内容の振り返りを行う。新曲視唱をなるべくたくさん行う。
第3回	<ul style="list-style-type: none"> <li>ピアノレッスン/弾き歌いのレッスン</li> <li>リズムエクササイズ</li> <li>コードチャートエクササイズ</li> <li>わらべうたの書き取りと遊び—2回目</li> <li>楽典の復習②子どもの歌に多い4つの調性と、各調の主要三和音について。それ以外のコード、特にマイナーコードの学習とそれらを学習する意義について</li> <li>ピアノ小曲の譜読みと学習</li> </ul>	事前学習	弾き歌い発表演奏に向けて個々の課題曲を練習する。
		事後学習	課題曲のピアノの練習を行う。音楽理論の学習内容の振り返りを行う。新曲視唱をなるべくたくさん行う。
第4回	<ul style="list-style-type: none"> <li>ピアノレッスン/弾き歌いのレッスン</li> <li>リズムエクササイズ</li> <li>コードチャートエクササイズ</li> <li>わらべうた書き取りと遊び—3回目</li> <li>楽典の復習③拍子とリズムに関して</li> <li>ピアノ小曲の譜読みと学習</li> </ul>	事前学習	第3回目に練習した曲、またはそれが終わった学生は新しい曲を練習しておく。
		事後学習	課題曲のピアノの練習を行う。音楽理論の学習内容の振り返りを行う。わらべうたをなるべくたくさん調べ、歌ってみる。
第5回	<ul style="list-style-type: none"> <li>ピアノレッスン/弾き歌いのレッスン</li> <li>リズムエクササイズ</li> <li>コードチャートエクササイズ</li> <li>わらべうたの書き取りと遊び—4回目</li> <li>楽典の復習④子どもの歌に多い4つの調性と、それらの主要三和音について。それ以外のコード、特にマイナーコードの学習</li> <li>ピアノ小曲の譜読みと学習</li> </ul>	事前学習	教科書に記載されている子どもの歌などに、多く使われる調性を調べる。
		事後学習	予め選曲した子どもの歌（教科書内）をハンドサイン付き無伴奏で歌唱し、それを録画した映像を提出する。
第6回	第1回目小テスト 事前に提出された、ハンドサイン付きの無伴奏の歌唱	事前学習	ハンドサイン付きの無伴奏の歌唱を録画し映像を提出する。
		事後学習	発表後の振り返りとして今後の自己課題を書き出す。
第7回	<ul style="list-style-type: none"> <li>ピアノレッスン/弾き歌いのレッスン</li> <li>リズムエクササイズ</li> <li>コードチャートエクササイズ</li> <li>各季節の歌を季節ごとにまとめて表にする。</li> <li>ピアノ小曲の譜読みと学習</li> </ul>	事前学習	第6回目に練習した曲、またはそれが終わった学生は新しい曲を練習しておく。
		事後学習	第7回目に指導された事柄を復習して練習する。アンサンブルで使う楽器についてその演奏の仕方を復習しておく。
第8回	<ul style="list-style-type: none"> <li>ピアノレッスン/弾き歌いのレッスン</li> <li>リズムエクササイズ</li> <li>コードチャートエクササイズ</li> <li>子どもたちが演奏することを想定したアンサンブルスコアの作成（簡単な編曲）</li> <li>ピアノ小曲の譜読みと学習</li> </ul>	事前学習	幼児音楽教育の基本的な捉え方に関するレポートの作成
		事後学習	第8回目に指導された事柄を復習して練習する。アンサンブルの楽譜になるべくたくさん触れる。
第9回	<ul style="list-style-type: none"> <li>ピアノレッスン/弾き歌いのレッスン</li> <li>リズムエクササイズ</li> <li>コードチャートエクササイズ</li> <li>絵描き歌に挑戦する</li> <li>ピアノ小曲の譜読みと学習</li> </ul>	事前学習	第8回目に練習した曲、またはそれが終わった学生は新しい曲を練習しておく。
		事後学習	予め選曲した子どもの歌（教科書内）を、保育の場を想定し、子どもに対する初回の指導などを交えて実施。リズム付き無伴奏で歌唱し、それを録画した映像を提出する
第10回	第2回目小テスト 予め提出された、子どもの歌の弾き歌いを発表する	事前学習	弾き歌い発表演奏に向けて課題曲の仕上げの練習する。
		事後学習	クラスメイトの演奏などを参考にし、歌唱の振り返りをする。
第11回	<ul style="list-style-type: none"> <li>ピアノレッスン/弾き歌いのレッスン</li> <li>リズムエクササイズ</li> <li>コードチャートエクササイズ</li> <li>子どもの歌をも用いたアクティビティ</li> <li>ピアノ小曲の譜読みと学習</li> </ul>	事前学習	主要三和音のカデンツを確認し、正確に弾けるようにする。
		事後学習	第11回目に行った即興演奏について、更に発展練習をする。
第12回	<ul style="list-style-type: none"> <li>ピアノレッスン/弾き歌いのレッスン</li> <li>リズムエクササイズ</li> <li>コードチャートエクササイズ</li> <li>子どもの歌をも用いたアクティビティ</li> <li>指導案作成の導入</li> <li>ピアノ小曲の譜読みと学習</li> </ul>	事前学習	主要三和音のカデンツを確認し、正確に弾けるようにする。
		事後学習	音楽活動にかかわる指導案について学び、次週のブレイクアウトセッションで話し合う際の叩き台を作成しておく。
第13回	模擬保育を想定したブレイクアウトセッションでのロールプレイ「保育者と園児」 手遊び歌の指導、絵本と音楽、身体運動を伴う音楽などあらゆる表現手段から保育内容を計画し発表する	事前学習	予めGR発表のテーマを相談し、実践する際の準備として簡易的な指導案を作成してくる。
		事後学習	発表の振り返りとして各々の役割において今後の課題を書きだし提出する

第14回	第3回小テスト模擬保育（前半）	事前学習	選択肢の中から選曲したわらべうたを、保育の場を想定し、子どもに対する初回の指導などを交えて、模擬保育として実践し、それらを録画した映像を提出する（全員）
		事後学習	発表者の実践について振り返りをする。
第15回	第3回目小テスト模擬保育（後半） する。 ※授業評価実施	事前学習	選択肢のわらべうたについて、詳しく調べる。
		事後学習	15回の振り返りに基づいて補強すべき部分の手当てを行う